

イミダゾリノン系除草剤耐性ダイズ(改変csr1-2, Glycine max (L.)Merr.) (CV127, OECD UI: BPS-CV127-9) の隔離ほ場における
 生物多様性影響評価試験
 (栽培実験期間: 平成20年度)

確認項目	確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について 本栽培実験では、隔離距離による交雑防止措置を行っています。同種栽培作物までの距離が10m以上(約100m)ある事を確認しました。(研究所の外の同種栽培作物以外のほ場との距離は約400m)。
	○選定場所について 本栽培実験では、実験区画の開花期の推定平均風速の算出値が毎秒3mを下回る事を確認しました。また、台風等の特段の強風の対応が必要なかった事を確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について 本栽培実験では、本措置を講じる必要がない事を確認しました。
	○モニタリング措置について 開花時期の平成20年9月1日～10月10日まで隔離ほ場内のフェンス沿いに指標作物を配置してモニタリングが行われました。指標作物より収穫された種子8,664粒についてPCR検定を行った結果、交雑粒は0粒で交雑は認められていません。また、補足データとして、平成20年9月11日～10月10日まで、研究所と外部の境界近くで栽培した指標作物より収穫した10,248粒についてもPCR検定を行った結果、交雑粒は0粒で交雑は認められていません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について 実験種子を袋、密閉容器に入れ管理、混入及びこぼれ落ち防止を行った事を確認いたしました。また、実験区画に防鳥ネットを種子播種日の平成20年7月19日から8月14日まで及び9月26日以降栽培終了の21年3月5日まで設置し、野鳥等の食害による拡散防止を行った事を確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について 平成21年3月13日現在、本栽培実験の実験区画がある隔離ほ場内作業専用機械を同ほ場内に管理、また、実験区画での作業終了後は隔離ほ場内の管理棟にて、長靴等の洗浄を行った事を確認しました。今後も引き続き確認の予定です。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について 種子は平成20年11月26～27日収穫後密閉容器に入れこぼれ落ちを防止し栽培実験区画より同社田原研究所へ搬出し、他の作物と区分して保管している事を確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について 播種後間引きした植物体については、裁断後ほ場の実験区画内に鋤込み不活化処理を行った事を確認しました。収穫した以外の植物体については、地上部は平成21年3月5日にこぼれ落ちないように実験区画からほ場内の焼却炉に搬出して焼却処理、地下部は3月12日にほ場の実験区画内に鋤込みして不活化処理を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて 本実験区画では、21年度に作物の栽培が実施されないため本栽培実験と同様の取扱いを行う必要がない事を確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について 計画書が平成20年5月26日に公表された事を確認しました。
	○説明会の開催等について 説明会が平成20年5月31日に開催された事を確認しました。また、本栽培実験についての問い合わせの対応、希望者に対し本実験への見学の受け入れを行った事を確認しました。情報提供のフォローアップについても適切に対応していた事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について 平成21年3月13日現在、説明会の開催等、本実験の経過について6件の情報がホームページに掲載されている事を確認しました。今後も引き続き確認の予定です。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について 本栽培実験での栽培及び処理の終了について、平成年21年3月31日にホームページに掲載されたことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	同研究所の指導に基づき(株)BASFアグロにて栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備している事を確認しました。

農業環境技術研究所
隔離ほ場(BASF社ダイズ 防鳥ネットその1)



平成20年10月3日撮影
図1

農業環境技術研究所
隔離ほ場(BASF社ダイズ 防鳥ネットその2)



平成20年10月3日撮影
図2